

第10号 華山会報

平成15年4月11日
財団法人華山会

華山と写楽

美術評論家
総合美術研究所 所長 瀬木 慎一



このような表題を掲げると、先年流行った謎の浮世絵師写楽を推理する類のものではないか、と取られそつだが、そつではない。すべて事実にもとづく記述である。

文化十三年（一八一六）十二月十七日、二十四歳の華山は、加藤曳尾庵に借用していた三冊の本を返しに行った。その一冊が『浮世絵考』で、正確には、『浮世絵類考』として世に知られることになる大田南畝の私記で、知友の間に回覧され、いろいろな知見が加えられて、今日、私たちが見る形となる。そのもつとも古い写本の一つが、この曳尾庵本で、それには「しかしながら筆力雅趣ありて賞すべし」と賛辞が明確に書き入れられていることで注目されている。

この人は、初め、水戸藩医だったが、この年、かねてから交際があったと思われる華山の父定通に相談して、田原藩医となった。その関係での接触である。この知識人医師は、南畝を中心とする文人画家と親密だった。従つて、写楽その人を直接知っていたかもしれない人物と言つていい。その編纂書『我衣』は、当時の世事の貴重な記録として、今でも各方面で利用されている。

文化十三年と言えば、彗星のように現れたかと思つたら、たちまち消え失せたこの絵師の活動期から僅か二十一年後のことであるから、華山はこの人から何かを聞いていたと考えられるが、それ以上のことは分らない。

しかし、諦めるのは早い。華山には、もう一人、写楽の目撃者たりうる人物と親交していた。同じ谷文晁門下の喜多武清は、彼が文字通り兄事していた画家で、八丁堀地蔵橋に住んでいて、しばしば通つては指導を受けていた。前記の『浮世絵類考』の式亭三馬の書き入れによると、写楽は同じ地蔵橋の住人だったのであり、この狭い地区のことだから、顔見知りでなかつたとは考えられない。このことから、兄弟子から、何かを聞いていた可能性もまた、十分に推察されるのである。

これまでの華山研究者たちは、武清との関係にはいくらか触れているが、曳尾庵のことは、ほとんど素通りであり、『浮世絵類考』の関連ではまったく注目していない。しかし、曳尾庵本を借覧した華山がそこで推奨されている、武清の隣人であるこの特異な絵師に関心をもたなかつた、といふことはあるまい、と考えられる。もちろん、彼は、次代の人間である。しかし、実は、これら二人の証人と深く接触していた一人の重要な関係者だったのである。



池ノ原公園

第九番合唱と

四州真景のスケッチ

華山・史学研究会会長

渡辺巨祥

日本で最も親しまれているベートーベンの第九交響曲（合唱）は、一八二四年に作曲され、初演されている。

古典派様式の完成と至上の高みにまで洗練させ、独自の様式を発展させて、晩年には、来るべきロマン派時代の萌芽さえ思わせる作風まで示している。この時代の新しい市民としての性格、つまり、自由・平等・博愛というフランス革命の精神とともにベートーベンの心を深くとらえていたのは、自然の人間性の要求と因襲との闘争、換言すれば、新しい生命に対する内的欲求とすでに規範化していた理想や制度に対する精神であつたといわれている。

ボーダレスの時代となって、同世代に日本に生きた華山の姿をとらえてみると、私の最も好きな作品『四州真景図巻』が浮かび上がってくる。

一八二五年、華山三十三歳の時（文政八年）、武蔵下総、常陸、上総の四州に及ぶ旅行の簡単な覚え書きとスケッチである。華山は、三十代の前後数年、藩政改新江戸城和田倉門改修の番士役、熊次郎の面倒、父の死等の「心労多慮」を重ね、華山らしい儒教道徳に基づく生き方を貫いて成長している。そういう時代のなかで、華

山の描いた『四州真景』のスケッチは、芳賀徹先生が「しなやかに写実的で、あの共感に満ちた人間観察、風景描写の人なつかしげな温かさとふくらみがいつも欠けることがなかった。画家華山の眼は、すでに月並みを脱して物に迫真する力と洋風写実の法をよみとることができるといわれているように、現代の私たちに全く自然に心に浸透してくるものがある。

一九世紀、市民革命の展開するヨーロッパ社会の変動とはいささか異にする日本の文化文政のいわゆる化政期の時代は、幕藩体制の解体期であり、太平の世相を謳歌しながら、実は封建制の衰退が一段と深刻化した時期である。この後華山は家老としての藩政の改革のかわら、蘭学の研究、西洋事情の研究等をとおして、幕藩体制のなかで積極的に新しい時代にむけての活動を展開するわけであり、やがて誤解を招いて窮地に追いこまれるわけであるが、華山の活動や作品を通して、心豊かで、人間性あふれる温雅寛容な人柄をこの時代にみることができるとは私たちにとって大変嬉しいことである。

それにつけても、華山研究の意義は、いつになってもその時代時代の感覚で、実際に華山の本音を直接あらわした画作や日記、旅行記にふれることによつて観察、研究することにあり、未来の私たちの生き方にとつて大きな教訓と勇気を与えてくれるところにあると思つた。

目次

	題字「華山会報」華山会理事
P	小澤耕一
	華山と写楽
P	瀬木慎一
	華山・史学研究会会長
P	目次
	画家渡辺華山の心象
P	『鷗鷺捉魚図』
	華山先生幽居中の書簡
P	田原町博物館所蔵品から
	『再耕像』（孔門十哲像の内）
P	渡辺華山の
	「自律狂歌草稿」鑑賞②
P	田原町博物館
	10年のあゆみ
P	田原・六連小学校で
	聞きました
P	「華山を知ってますか？」
	田原町博物館
	特別展のご案内
P	財団法人華山会
	からのご案内
	田原町博物館

画家渡辺華山の心象

渡辺華山筆 鷓鴣捉魚図

天保十一年（一八四〇）絹本墨画淡彩

縦一〇・三cm 横四二・一cm

出光美術館蔵

「鷓鴣」とは、鶉のことです。作品名が示すように、今まさに捉えられた鮎を呑み下そうとする鶉が主題となった作品です。鶉の上には、川の上にせり出した柳の枝から見下ろす翡翠が描かれます。二者の間の緊張感を見る者にも感じ取られる華山晩期の花鳥画の代表作です。晩期の華山作品においては、描かれた対象が、暗に自分自身の置かれた立場を投影したものであったり、小動物を組み合わせ、鎖国日本と海外列強の緊張感を比喩的に感じさせたりする作品があります。

款識は、画面左上に「法沈衡齋之

意 乙未六月下浣 華山登」とあり、印に朱文小方廓印の「渡邊登印」と白文長方印の「鷓鴣保」を使用しています。図中の年紀は、「乙未」で、天保六年にあたりますが、田原蟄居中の日記である『守困日歴』（天保十一年七月一日から十二月二十八日までを記録していますが、記述は四十一日間のみ、個人蔵）の第二丁、七月一日の頁にこの作品に関連すると思われる記述があり、蟄居中の作品と推定されます。記述の内容は「青緑山水、鷓鴣捉魚の二幀を画く、鈴木春山持去る」とあり、田原藩の蘭法医であり、蟄居中の華

山を診察していた春山が本作品を「青緑山水図」とともに持ち去ったことが知られます。「蛮社の獄」の評決で、在所田原蟄居が申し渡され、この年一月に田原の地へ到着しましたが、獄中及び護送中の病が癒えず、体調の回復した七月から『守困日歴』を書き始めました。この作品は、この頃に描いた作品のひとつで、落款に記された「沈衡齋の意に法る」とは、華山十代の頃、谷文晁の画塾写山楼に通い、多く模写した沈南蘋（一七三二年に長崎に来日した清の画人で、色彩あざやかな写実的花鳥画を多く描き、人気があった）で、

この作品も沈南蘋の画風を学習したものと、華山は書いています。しかし、単なる模写でなく、画家としてのリアリズムと、学者であり、藩の重役としてのストイックな部分を併せ持った時代の先覚者としての苦惱が緊張感として作品にみなぎっています。

この作品は、四月二十五日から始まる田原町博物館開館十周年記念特別展「出光美術館所蔵 文人画名品展」に出品されます。

田原町博物館学芸員

鈴木利昌



華山先生 幽居中の書簡

岩本茂兵衛・おもと・喜太郎宛

(天保十二年一月三日付)：新年挨拶状

茂兵衛様

喜太郎様

新春御慶目出度申納候。皆様御揃御迎年之事と御祝詞申納候。此地八日々北西風烈敷、竹やぶ日夜なりさはぎ、春のけしきはさらになく候得共、江戸の物人多、いかゞ年を越候半と前広より胸ふさがり、其上内外昼夜いそがしく、剩ソレ火事ソレ客ソレ外勤などバタクサ年暮、翌元日よりはくらき内より駕籠にて江戸中のりまはし、年礼に半月はくれて仕舞候得ば、又々旧年の仕のこし其年之事ども打おこり、平日の繁勤となりかはり、内もそれに準ジ年礼客日々入かわり、夢の如くよをわたり候処、此節は打かわり、母事は天下様に殿様にも何もかも吾人にて、拙者妻・かつは母吾人を敬ひ奉り、立・かのふは御伽を致、一家和睦、折々はもと仕ひし男共、又此地にて仕候女ども、入かわりきげんき、大にまぎれ申候。孟子様被_レ仰候人間の樂ニあり。天下を取るの樂はあ

づかり不_レ申、第一は父母御存生、妻子兄弟病氣もなく機嫌能、是天の樂にてねがひても出来ぬはこれ也。天子諸侯富貴の人とても、親兄弟多病ものいひ仲あしきものあり、何がこの世の喜しかるべき。拙者四海広しといえども居る所なき罪人也。されども天下太平の民の中をはなれず、公儀ノ御恩沢に浴し、産おとせし母の手元に在て孝養を尽され、家内子共もよく母のきげんをとり、何ひとつ心に不足なき身と相成候得ば、自然母も家内も安心毎日難_レ有喜び世渡り、これ迄母も小言を不足を申候得共、此地にまいり何にも左様の事は無_レ之、まめくしく喜びつゝ此春を迎え、今年も親子むつまじく暮候半と大楽に候間、御び御安心可_レ被_レ下候。誠に天下様殿様御恩難_レ有、ことしにてもいつにても一篇は喜太郎事日光へ御礼に罷越候様御頼申候。目出度御祝義如_レ此候。頓首

正月三日

随安

茂兵衛様

一、昨年成田へ御礼参として道中記、さてく御難義、喜太郎よき稽古にて、又のちくの咄たね御心功忝候。願事なり田不動の礼参り誠に苦しむぞよき

一、帯地はんゑり此方にて礼に遣し度所あり、御序二御調可_レ被_レ下候。代料々式百足計のもの序に被_レ遣、又代も終上可_レ申候。

一、内々かき置候絵を売り取つゞき度候。これはひたすらに孝養のために致候。これにて日々魚の料、寒のしのぎ致心願也。

一、おもと事親孝行の名をとり、茂兵衛どのへ事へ候事もおしはかられ候。拙者不孝ものとは大違、されども妹に美名をとられくやしき候まゝ、自らはげましおもとの上に孝名を取度候。其上喜太郎と申よき子を持、いまくしきやつに御



岩本家旧宅



岩本家菩提寺 観音院

座候。おもとうまれつきふためと見られぬ不きりう女、それがかへって楊貴妃・西施よりも上の美人と相成、拙者人並の男、それにおにか夜叉のやうにいはいはれ、同じ兄弟にてかくも違ひ候ものか。

ことわざの人はみめよりたゞこころ たゞこの心よくすれば善し

みがかねばくもりみがげばあきらかに なるとしりつゝおく鏡かけ

おもと母へ孝行、これからは茂兵衛どのへ孝行、拙者は母へ孝行、孝行の仕くらべ也。

ことしよりいざ孝行のくらべせんまだあさづけと人はいふとも

喜太郎も一口はいるべし。
孝行を一口なりとくって見な家のおもしがきく
かきかぬか

まことによき春也。目出度申入候。かしこ
証人茂兵衛さま 御一覽

おもと 殿

喜太郎どの

御家内一統

一、ぬめ絹も、ねり候もの一巻、御序に願上候。

注

岩本茂兵衛 桐生の絹仲買商で華山妹おもとの夫。

喜太郎 おもと茂兵衛の長男。

天下様 將軍のこと。

樂三あり 紀元前三〇〇年中国周代魯に出た賢人孟子

の言。人生の三樂

父母存し兄弟無故、省みて天に恥ざる行状、

天下の英才を教育すること。の三樂

式百足 百足が一分、二分で一両の半分

楊貴妃 唐の玄宗の妃で才色兼備の美女。安祿山の反

乱で兵に殺された。(七一九 七五六)

西施 春秋時代越の美女、吳王夫差は西施の美色に溺

れ国を滅ぼした。(紀元前五〇〇年)

おもと母へ孝行 岩本家の女主人と云われた女丈夫の

姑お幸に仕えて、おもとは孝行貞淑の hands として地

頭から二回も表彰を受けた。お幸は天保九年十二月

十五日に八十三才で世を去った。
ぬめ絹 練ってやわらかにした絹布。



岩本茂兵衛 幸 夫妻の墓



三代 岩本茂兵衛 茂登 夫妻の墓



四代 岩本喜太郎 伊久 夫妻の墓

華山先生幽居中の書簡

鈴木与兵衛宛(天保十二年三月二十八日付)

…平井顯齋の推薦文

一、御頼之画、いづれも承知、殊ニ楽庵子御称誉之よし知己之人也。辞がたく候。又大雅拳之御蔵主、これ又猶更ニ御座候。されども此節画八認め不申候間、認置候品さがし上可申候。それ故御望之通には参かね可申候得共、たしかに有之かと存候。

一、遠州相良辺に住居致候高名之顯齋と申先生、六七日之内二八御地へ出られ候よし。これ八江戸にて、文晁はじめ楽屋にて評判有之人也。門人も多く候。半香兄弟同様之人也。文人画尤長、其外何にても出来不申もの無し。此人幸之事ナレバ、私へ御入門被成度との御方二八、尊兄御推挙御引合、御学被成候方可然候。とても御存之通、たゞ独楽ニかけバかき候拙者之事朝夕老母之奉養にも暇無之間、画も日々下り、人様御取立など、申事八出来不申愧入候間、何卒此顯齋先生ナラバ十分也。其上椿山と申もの八、私弟子と八申もの、中々以私如き下手に八無之、顯齋も深く交り候もの也。椿山は江戸二居申候。これも当時日の出、門人毛多く、已ニ当明石様も御入門被成候。依之顯齋へ画法御聞被成、椿山へも花鳥など御文

通あらバ、十分之事ナルベシと存候。

一、右之通顯齋近々御地へ罷越候よしなれば、何卒画御頼、足引留メ候様奉願候。此れ人所々の絵ヲ請合、極いそがしき人に付、手ぶらに居候事出来申間敷候間、先俄之事故、急ニハドツトモ頼出申間敷二付、差当り少シにてもはやく御頼、足引留、それより御判評可然候。半香より竹内玄道様とか申人へも頼ミ参り候よし、何事も左之通可然候。頓首

三月廿八日

極内八私安否ヲ問ヒニ参候よしなれども、又と申て八と申事にて、空敷歸るも如何に候間、定めて吉田見物ナガラ如何と半香も勸メ候よしにて、竹内氏へ伝書之よし、もし罷出候様候ハ、尊兄宜敷奉願候。

注

楽庵 吉田田町世古東側に住む書家、画技もあり、茶

七一樹道人と号す。弘化元年正月七日没す。

大雅拳 池大雅や円山心拳。

顯齋 姓は平井、名は悦、後年の号三谷と云う。静岡

県榛原郡川崎村谷ノ口出身、初文晁に師事し、後華山に入門。安政三年四月十二日岡崎市裕金町上野

屋藤兵左方で客死す。五十五才。

明石様 明石藩六万石藩主松平成宜及老公成詔、天保

十一年七月五日椿山入門

判評 画の批判をする。

竹内玄道 吉田の医師、住所其他不詳。

鈴木与兵衛宛(天保十二年四月十六日付)

…顯齋吉田逗留の様子伺い。

此間、顯齋罷出御世話忝奉存候。如何其様子承知仕度。

一、毎度恐入候得共、此一封大いそぎ四日切にて江戸行、早々一刻もはやく御差出奉願候。賃錢何ほどや御取かへ奉願。顯齋子へも宜敷奉願候。以上

四月十六日

三岳先生

注

三岳 鈴木屋与兵衛の俳号、吉田抱六町で味噌醸造業

を営み、吉田藩の御用達。華山先生宅を度々訪れ、

俳画を学ぶ。椎之舎三岳と称し、卓池俳諧の弟子。

安政元年九月四月、六十三才で没した。

財団法人華山会理事 小澤耕一

田原町博物館 所蔵品から

重要文化財 小田昂齋筆 冉耕像

(孔門十哲像の内) 松平定常賛

絹本着色

縦一〇二・九cm 横三六・九cm

賛の意味は次のとおりです。

祖先の霊を長い間祀り、代々の祭器を受け継ぎ、東平(山東省)に墓がある。汶県(河北省)より帰った伯牛は悪い病気に悩み、良い言葉も少なく、残る伝説も無い。この人に

鳥取支封致仕松平定常敬題

昂齋謹寫

廟祀百世永享豆蓬
東平有墓遷自汶縣
惜夫嘉言闕遺無傳
斯人斯疾寔命寔天
從隄陳蔡杏壇周旋
小物之節夫子勵焉
具体而微四友比肩
猗歟郵公入室之賢

廟祀百世、永く豆蓬を享く
東平に墓あり、汶縣自り遷る
惜夫嘉言、闕遺伝つる無し
斯の人にして斯の疾あり、寔に命なり寔に天なり
隄に陳蔡に従い、杏壇を周旋す
小物の節、夫子焉を励ます
体を具えて微なり、四友肩を比す
猗たるが、郵公入室之賢



して、この病気、天命である。陳蔡の厄(孔子が陳と蔡の国境で食糧を断たれて、苦しんだ災厄)にならない、学問をすすめた。伯牛は心の小さい人であったが、孔子は彼を励ました。君は謙遜し過ぎる、四人(顔回・閔子騫・冉伯牛・仲弓)は対等である。

賢人となった。 冉耕は、冉伯牛ともいい、孔子と同じく春秋時代の魯国出身で、名は耕、字を伯牛といます。孔子の弟子の中で、徳の実践においてすぐれた才能の持ち主として、顔回・閔子騫・冉伯牛・仲弓があげられていま

す。彼は孔子より七歳年少です。冉耕は魯国の中都の町の長官を勤め、病で亡くなります。

池田冠山で、明和四年(一七六七)に旗本池田政勝の次男として生まれ、池田(松平)大隈守定得の養子となり、安永二年(一七七三)に遺領を継ぎ、因幡若桜藩主となります。佐藤一斎の門人で、林述斎と親交もあり、和漢の学問に通じ、毛利高標・市橋長昭とともに柳間詰の「文

学の三侯」と称され、多くの著書があります。享和元年(一八〇一)に家督を嫡子に譲り、隠居しましたが、帰郷せず、読書・述作をして暮らします。魯国の中都の町の長官を勤めた冉耕の画賛を因幡若桜藩主の松平定常に依頼しました。

この作品は、昭和三十年二月二日に重要文化財に指定された渡辺華山関係資料の附として、同三十二年一月九日に追加指定され、昭和五十三年三月二十四日に歴史資料に指定替されました。

田原町博物館学芸員

鈴木利昌

渡辺華山の 自律狂歌草稿鑑賞 (2)

一、ほのほのと

(狂歌)

恥柿本の人悪る

ほのほのとあかしの

油これきりに

しまかくれ行

機おしそ思ふ

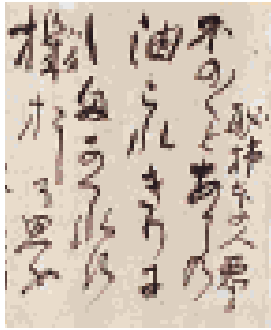
(狂歌の意)

ほのほのと明るく点つていた灯の油もこれきりになって、織物の縞模様も次第に見えなくなっていく機をしみじみと感慨深く思つて見ることだよ。

(鑑賞)

この狂歌はさすがに華山が巻頭に掲げるだけあって、華山の狂歌の代表作といつていいものである。

本歌と比較してみるとよく分かることであるが、華山の狂歌は本歌のかなりの部分を借用している。表現上違うのは、二句目の「油これ」と五句目の「機」のみである。この二カ所のことばを入れ替えるのみで、歌の情景も主題もまったく異なる風景とな



(本歌)

伝柿本人麻呂

ほのほのとあかしの浦の朝霧に

鳥隠れゆく舟をしぞ思ふ

(歌意)

古今集・巻九・羈旅・四九

ほんのりと明るくなっていく明石の浦、その浦に立ちこめる朝霧の中を鳥隠れに行く舟をしみじみと感慨深く思つて見ることだよ。

つて出現してくるところに、この狂歌の面白さがあるといえるのではなからうか。

本歌の主題は、明石の浦の朝霧の中を航く舟の様子であるが、狂歌ではそれが僅かに二カ所の表現を取り替えるのみで、朝の景は夜の景へと変わり、夜の灯火のもとで機を織る風景へと転化し、どこにでも見られる身近な庶民の機織りの景となっている。表現の面でも、本歌以上に技巧が凝らされ、掛詞が本歌では「明石」と「明かし」という一組であったものが、狂歌では「しま」の語は「鳥」と着物の「縞」、「きり」は「霧」と「これきり」の「きり」、それに本歌と同じ「灯」と「明かし」の三組が増えていて、より手の込んだものになっているところがよくできたところといつていい。ほのほのと照らしていた灯しの油も無くなってきて、今まで見えていた織物の縞模様が消えていくという機織り風景にはしみじみとした庶民の哀感のようなものまで漂っていてまことに好ましい。

この本歌は『古今集』では「題知らず」で「よみ人知らず」となっているが、一説には柿本人麻呂という説もある。華山はおそらくはこの歌の作者を柿本人麻呂と思つていたから、狂歌ではそれをもじつて「恥柿本の人悪る」としたのであろう。ここにも華山の二工夫の跡がうかがわれて面白い。

二、桜色

(狂歌)

気のつら行

桜色ほろ酔い顔八

さむからで内にしられぬ

火そふりにける

(狂歌の意)

桜色になったほろ酔いの顔は寒くはなくて身体の中には家人には分からない

(本歌)

紀貫之

桜ちる木の下風は寒からで

空に知られぬ雪ぞ降りける

拾遺集・巻一・春六四

(歌意)

桜の花が散る木の下を吹く風は寒くはなくて、空にはまだ見たこともな

火が降っていることだ。

い雪が降っていることだ。

(鑑賞)



本歌は、桜が散る空に雪が降るといふ設定で、技巧によって高度に観念化された詩的想像の世界が詠まれている。これに対し、華山の狂歌は、ぐつと庶民的な酒飲みの歌となつて、ほろ酔い人の身体の中には家人も知らない火が降っているといふ想像の世界となつているのである。

表現技法的には、やはり、「桜・・・寒からで・・・知られぬ・・・ぞ降りける」と、本歌取りをかなりの部分使っている。それに、「内にしられぬ」の「内」はもと「家」と書いたものを一度消して「内」になおしているの、やはり家内と自分の身の内という二つを掛詞とする意識があつたことが分かる。これも華山の二工夫したところである。

本歌の作者は紀貫之、それを狂歌では「氣のつら行（氣がのつらくなって行くの意）」とパロディ化したところも面白い。

華山は生前とても酒が好きであつたようで、『目黒詣』や『游相日記』のような紀行文などには、かなり酔っぱらつた状態になつた様子を度々書き記しているし、『守困日歴』や『客参録』などにも度々訪れてきた客人らと酒を汲んだという記録を残している。この狂歌は、いかにもそうした酒好きの華山の一面がよく現れた一首と言つていい。

三、馬鹿なやつ

(狂歌)

馬鹿なやつ沙満ち
山辺のバカ人
くれ八あぶないに

(本歌)

若の浦潮満ち来れば瀧をなみ葦辺
山部赤人
をさして鶴鳴き渡る

芦辺(を)さして網打わたる

万葉集・卷六・九一九

(狂歌の意)

(歌意)

馬鹿なやつだ。汐が満ちてくるとあぶないのに、芦の生えた辺りを目指して網を打つてわたつていくことだ。

若の浦に潮が満ち来ると干潟が無くなるので、葦の生えた岸辺を目指して鶴が鳴いて渡つていくことだ。

(鑑賞)



本歌の主題は、満潮時の芦辺を鶴が鳴いて渡つていく様子である。そこには、実に印象的な絵画的風景が美しく詠出されていて、万葉の都人の美意識が感じられる。狂歌の方は、同じ芦辺の風景を題材としながらも、大いにうがちを働かせて、庶民的な身近な生活感が滲み出るように網を打つ漁師の姿に変えて、満潮時に網を打つて芦辺を渡つていく人の危うさに主題を取り替えている。

表現技法的には、やはり本歌取りが主体で、「満ち来れば・・・葦辺をさして・・・渡る」とかなりの部分が借用されている。本歌の「若」を「馬鹿」とし、作者名の「赤人」を「バカ人」と替えるような、音の類似を利用した技法は華山の他の狂歌にもよく見られ、その言語感覚の確かさもつかがわれて面白い。

芦辺での網打ちは、特に汐の満ちてくる時は注意しないと、汐海の中に孤立してしまう危険のあることはよく言われるところである。華山もそのことをよく知っていたからこのような狂歌ができた訳であるが、この狂歌を創ったとき、華山の心の中にはこの網人を自らの姿として戯画化しようとする意識が働いていなかったろうか。第一章の『狂歌草稿』の解説でも触れたとおり、華山はこの時期は福田半香の義会の件でかなり精神的に不安感を抱いていたはずである。汐の満ちてくる芦辺を危なげに網を打ちながら渡っていく漁師の姿は、半香義会によって世評の危うさに直面している自らの姿と捉えて何の不思議もない。私は、「この解説で」「自律」と書いているが、何故この狂歌が自らを律するという意味になるのか、命名の理解に苦

しむところである。「とも書いたが、もしもこの狂歌に「自律」と冠することが可能であるとするならば、華山自身に「こういふ意識があったと仮定して、僅かにこの狂歌が該当するといっているのではなからうか。うがち過ぎたと言われれば、それまでではあるが、このように見ると、この狂歌もまた「層味わいも深くなり、山辺のバカ人」という命名にも、華山自らの自嘲さえも込められているようにも見えて、哀れさも増してくる。

四、吉田にて

(狂歌)

吉田にて更に女郎
のなかりせは春の

ころ八のとけからまし

(狂歌の意)

吉田においてももしも全く女郎がなかったならば春の人の心はさぞゆったりと
のどかであるついに。

(本歌)

在原業平

世の中に絶えて桜のなかりせば
春の心はのどけからまし

古今集・巻一・春上・五三

(歌意)

世の中に、もしも全く桜がなかったとしたならば、春の人の心はさぞゆったりと
のどかであるついに。

(鑑賞)



在原業平の本歌の主題は、桜の花に寄せる人の心である。桜の花の咲くのを待ち
焦がれ、咲けば咲いたで風雨を心配し、花が散り出
せば、その散りゆく姿に心を乱し、散ってしまった
後葉桜となりゆく様にまであれこれと心を砕く。そ

つした桜を愛でる人の心が実に巧みに詠み込まれた古今の名歌である。

華山の狂歌は、その下の句を本歌取りして、吉田(現在の豊橋市)の女郎衆によ
せる人の心を主題とするものに転化している。こうした方法は、比較的容易にでき

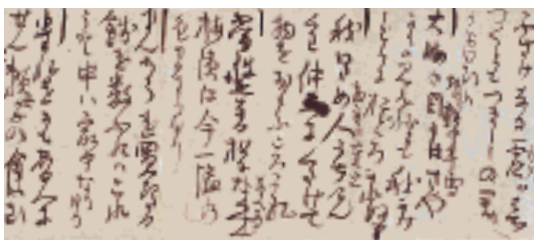
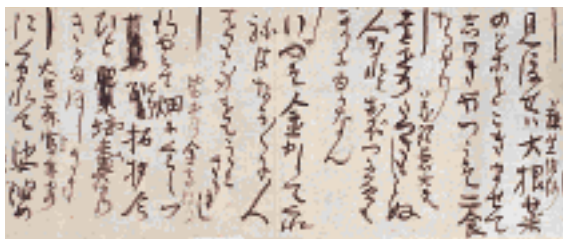
ることもあって、華山の友人の四方赤良(太田蜀山人)も「世の中にたえて女のな
かりせばをこの心のどけからまし」という狂歌を作っている。華山にはこの友人
の狂歌が意識の底にあったかどうかは知らないが、華山の場合は、田原に近い吉田
を素材として入れることにより、祭礼の青年やこれを読む地域の人々により身近な
一首としたところが手柄と言っている。当時この吉田の遊郭にはどれほどの数の女
郎衆がいたのかは定かでないが、文化四年(一八七)に土屋斐子と言つ女性の書
いた『たびの命毛』という随想の中には、次のように書かれている。

「未の時に吉田を過る。こと所にはならぶべくもなく、にぎはしきまた類なし。
あそびどもいと多くて、ひなびたる中にも都めきたるけそいたればいとめやすし。」

この「あそびども」というのが女郎衆のことで、こうしたことからも当時は赤坂
に次いでこの地方では女郎衆も多かった所のようにである。

(続)

研究会員 山田哲夫



田原町博物館 10年のあゆみ

田原町における博物館の歴史は、明治43年に華山会が創立され、町内の学校施設等で展覧会を開催したことに始まりました。

過去に町内に建設された展示施設
昭和9年10月 田原城跡二ノ丸に
華山文庫が建設されました。



- | | | |
|--|---|--|
| 昭和33年10月 華山文庫を移築して二ノ丸櫓跡にて郷土博物館として運営 | 平成元年6月23日 第2回博物館構想委員会の開催 | 平成3年1月23日 (仮称) 田原博物館建設工事実施設計業務契約 (河合松永建築事務所)。 |
| 昭和42年4月 華山会館完成にと
もない、その1階へ「田原博物館」として移転。 | 平成元年7月13日 第3回博物館構想委員会の開催 | 平成3年3月 田原城跡公園用地購入。 |
| 昭和54年2月 田原町民俗資料館開館。 | 平成元年7月27日 第4回博物館構想委員会の開催 | 平成3年3月30日 (仮称) 田原博物館建設工事実施設計業務完了。 |
| 昭和63年8月 田原地域文化広場1階へ移転。 | 平成2年 博物館基本構想決定。 | 平成3年5月21日 (仮称) 田原博物館建設工事契約(安藤建設株式会社)。 |
| 田原町博物館の建設 | 昭和61年5月1日 田原町長より田原町文教地区及び博物館整備調査委員会に博物館整備調査に関する諮問を行う。 | (仮称) 田原博物館建設工事監理業務随意契約(河合松永建築事務所)。 |
| 昭和61年12月2日 田原町文教地区及び博物館整備調査委員会から田原町長に、田原町文教地区調査に関する答申が提出される。 | 平成2年9月26日 (仮称) 田原博物館建設工事基本設計業務契約 (河合松永建築事務所)。 | 平成3年5月27日 起工式。 |
| 昭和63年4月18日 博物館用地購入。 | 平成2年11月8日 (仮称) 田原博物館建設工事地質調査業務契約 (河合松永建築事務所)。 | 平成3年8月2日 (仮称) 田原博物館展示工事契約(株式会社丹青社)。 |
| 平成元年4月7日 博物館構想委員会設置。 | 平成3年1月16日 (仮称) 田原博物館建設工事基本設計業務完了。 | 平成3年8月7日 外構工事実施設計業務契約(河合松永建築事務所)。 |
| 平成元年5月26日 第1回博物館構想委員会の開催。 | (仮称) 田原博物館建設工事地質調査業務完了。 | 平成3年9月20日 (仮称) 田原博物館周辺整備工事実施設計業務契約(河合松永建築事務所)。 |

博物館映像シナリオ作成業務契約（株式会社丹青社）。

平成3年11月6日 田原城跡榭池改修工事契約（株式会社石高組）。

平成3年11月27日 田原城跡土塁整備工事契約（安藤建設株式会社）。

平成4年3月 田原城跡榭池改修工事竣工（株式会社石高組）。

田原城跡土塁整備工事竣工（安藤建設株式会社）。

平成4年6月 田原城跡整備工事契約（安藤建設株式会社）。

平成4年9月14日 田原町博物館条例公布。

平成4年12月 田原町博物館建設工事竣工（安藤建設株式会社）。

平成4年12月25日 田原町博物館の管理運営に関する規則公布。

平成5年2月 田原町博物館展示工事竣工（株式会社丹青社）。

平成5年3月 田原城跡公園公衆便所建設工事竣工（安藤建設株式会社）。

平成5年4月26日 田原町博物館開館



田原町博物館開館後の経過
〔期間・展覧会名・入場者数・図録刊行状況〕

平成5年度
4月27日～5月16日 生誕200

年・田原町博物館開館記念特別展「渡辺華山とその師友展」

19、720名 5、000部（完売）

4月29日 記念講演会東京都庭園美術館長鈴木進氏「華山先生と師友」

8月11日 渡辺華山記念碑建立。

田原町博物館友の会設立。

9月21日～11月21日 秋の企画展

「近世から近代へ 華山系の花鳥・風俗画」 12、603名 15、000部（無料配布）

10月11日 華山・江戸まつり

平成6年度

4月19日～6月19日 春の企画展「田原藩と三山展」 9、654名 8、000部（無料配布）

10月5日～11月13日 秋の企画展「椿椿山展」 8、158名 2、000部（販売中）

10月11日 企画展講演会美術評論家・宇都宮文星短期大学教授上野憲示氏「椿椿山の人と芸術」

11月 民俗資料館改修工事竣工。

12月 入館者10万人目
平成7年度

4月26日～6月11日 春の企画展「華山とその一族展」 6、535名 5、000部（無料配布）

5月20日 企画展講演会田原町博物館調査員加藤寛二「華山とその一族展」

9月13日～10月22日 秋の企画展「日本の夜明け展」華山とその同志」 4、795名 1、500部（販売中）

10月11日 企画展講演会高野長英記念館館長平塚均氏「国際化・情報化時代と高野長英」

平成8年度
8年3月8日 登録博物館認可。

4月24日～6月9日 春の企画展「渡辺華山を取り巻く人々」 6、164名 5、000部（無料配布）

10月2日～11月17日 秋の企画展「相撲錦絵展」 4、861名 2、000部（販売中）

10月11日 企画展講演会相撲評論 家小島貞二氏「錦絵で観る江戸 の相撲」	3、735名 1、 000部(完売)	華山、芸術的、政治的な英雄」 1、444名	の調査と日本考古学の歩み」 10月11日 没後160年記念講演 会童門冬二氏「渡辺華山から今 何を学ぶか」
平成9年度 4月23日～6月8日 春の企画展 「新収藏品展」渡辺華山とその 門下を中心に」4、768名 6、500部(無料配布)	7月10日 民俗資料館空調設備工 事(田原電気工事株式会社)竣 工。 9月29日～10月31日 秋の企画展 「渡辺華山の書」 2、657 名 6、000部(無料配布)	平成13年度 4月24日～6月2日 春の企画展 渡辺華山を取り巻く人々2「渡 辺華山が仕えた主君たち」 2、062名 5、000部 (無料配布)	平成14年度 4月24日～6月2日 春の企画展 「北斎漫画展」画狂人が与えた ジャポニスム」 6、107 名 1、000部(販売中)
6月6日 展示室・収蔵庫増築工 事契約(株式会社孤田建設)。 10年3月 民俗資料倉庫竣工(株 式会社孤田建設)。	10月11日 企画展講演会東京大学 教授河野元昭氏「渡辺華山先生 とその時代」 4月26日～6月11日 春の企画展 「新収藏品展」渡辺華山とその 門下の魅力」 3、771名 6、000部(無料配布)	7月7日 特別展講演会愛知県美 術館平成13年度移動美術館 「近代美術の楽しみ～自然のか たち、人のかたち」 5、50 0名	5月12日 企画展講演会北斎漫画 蒐集家・浦上蒼穹堂店主浦上満 氏「北斎漫画の魅力」 10月9日～12月1日 秋の企画展 「白井烟富展」華山・椿山の画風 を継いだ最後のひと」 4、0 73名 1、200部(販売中)
平成10年度 8月30日 入館者20万人目。 11年2月25日 展示室・収蔵庫増 築工事、付帯工事竣工(株式会 社孤田建設)。 11年3月30日 民俗資料館改修工 事(株式会社立岩工務店)、展 示パネル等設置工事(株式会社 メタルテクノ神戸)竣工。	9月9日～10月11日 秋の企画展 没後160年「谷文晁」若き日 の憧憬」 2、377名 1、 000部(完売)	9月2日～10月8日 秋の企画展 「発掘された日本列島20001 新発見考古速報展」・(同時 開催)地域展「吉胡貝塚ものが たり」 8、527名(地域展) 7、000部(無料配布)	平成15年度 4月25日～ 田原町博物館開館10 周年記念特別展「出光美術館所 蔵 文人画名品展」
平成11年度 5月1日～5月30日 田原町博物 館増築竣工記念企画展「富岡鉄 斎展」清荒神清澄寺コレクショ	9月23日～10月6日 特別展示ア メリカジョージタウン市「渡辺	9月9日 企画展講演会大正大学 名誉教授・静岡県埋蔵文化財調 査研究所長斉藤忠氏「吉胡貝塚	

六連小学校で
聞きました

華山を知 てますか？

1 とき 平成十五年二月七日(金) 授業後
2 参加してくれた人

杉田翔子さん(6年)、伊藤伸幸君
(6年)、渡辺智章君(6年)、村田
司先生(6年担任)

「渡辺華山」って、どんな人ですか？

児 絵が有名な人。

児 絵がすごく上手…。

児 絵が上手で、田原藩の家老。

児 そのいう華山という人をどこで勉強したのかな？

児 授業とか、図書館の資料です。

児 図書館に本があるのですね。伝記ですか。

児 図鑑のような本です。

児 ぼくは、インターネットで調べました。

児 授業で、先生から資料をもらって、それを見て知りました。

児 六年生は、歴史の勉強はもう終わったのかな？

教 はい、もう終わりました。今は公民的分野です。

歴 歴史の勉強の時間に『渡辺華山』の資料を配られたのですね。

教 いや、歴史の勉強は、日本の歴史の流れを通史的に学んだので、地方や郷土のことはあまりと

り上げてきませんでした。それで、総合の時間も使って、「華山」の

ことも勉強したわけです。何時間ぐらいですか。

教 ビデオもみましたしね。それを含めて三時間ぐらいです。

ビデオをみたり、配られた資料を読んで、よく分からないところ、

もっと知りたいことなどはありませんか？

児 まだ、全部読んでありません。

児 ことばがむずかしくて、少ししか読んでありません。

勉 勉強の中で、「華山」が偉いな

あと思ったことを教えて下さい。

児 家族のために、遅くまで絵を描いていたところです。

児 生活が貧しくても、大ききんを乗り切るほど、すごい知恵があった。

き きんってどういうこと。

児 お米とか食べ物がなくなること。きみたちが持っている資料の初めに「報民倉」の額の写真があり

ますね。実物は、田原町博物館にありますよ。

児 博物館に行ったことはありません。

児 ぼくもまだ行ってない…。

華 華山の絵で、心に残っているのは？

児 虎の絵がすごく細かいところまで描いてあった。

児 「一掃百態図」です。いろいろな人間がうまく描いてあった。

児 人の絵がたくさん描いてあって、一人ひとりがすごくうまく描いてあった。

児 ビデオでみた。

教 「華山劇」の一場面(立志)もビデオでみました。

お家の人から華山の話聞いたことはないかな。

児 はい、ありません。

児 おじいちゃんやおばあちゃんはいるけど、聞いたことはない。

児 お父さんと普通の話はするけど、華山のことは聞いたことがありません。

学校の図書館に『少年物語渡辺華山』という本はありませんか？

児 さあ、知りません。

児 私も見ていません。

『少年物語渡辺華山』を読んだりして、これからも郷土の偉人渡辺

華山を学んで下さいね。

児 はい、分かりました。博物館へも是非出かけて下さいよ。

児 行きたいです。博物館へは、行かなければいけませんね。私も勉強します。

(聞き手・文責 林和彦)

田原町博物館から
特別展のご案内

田原町博物館
開館10周年記念特別展

出光美術館所蔵

「文人画名品展」

日本の文人画の魅力凝縮、10点の
重要文化財・重要美術品を一挙公開

会期／平成十五年四月二十五日（金）か
ら六月十五日（日）

休館日／毎週月曜日、ただし、五月五日

は開館し、翌五月六日（火）に休館し
ます。

開館時間／午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

観覧料

一般 五〇〇円（四〇〇円）
小・中生 一〇〇円（八〇円）

（ ）内は20名以上の団体
割引料金です。

毎週土曜日は小・中・高生無料開放日

主催 田原町・田原町博物館

（財）華山会・中日新聞社

後援 愛知県教育委員会

NHK名古屋放送局

出光美術館は、出光興産株式会社の創
業者である出光佐三氏が七十有余年にわ

たつて蒐集した美術品を公開するために
昭和41年秋に開館しました。「美術館は独
創と美と努力が結集した一つの美術品で
なければならぬ」との信条のもと、年
7・8回の館蔵品による展覧会を中心に
開催しています。美術館は、帝国劇場ビ
ルの9階にあり、日比谷通りに面し、江
戸城（現皇居）跡のお堀や緑をロビーか
ら見ることが出来ます。そのコレクショ
ンは古美術から現代作家まで幅広く、や
まと絵、中国絵画、風俗画、浮世絵、琳
派、文人画、仙厓、書跡、日本陶磁、中
国陶磁、板谷波山、ルオー、サム・フラ
ンシスなどがあり、今回展示する文人画
は、日本を代表するコレクションとなっ
ています。

展示内容

江戸時代後半期の鎖国日本で、中国文
化に憧憬し、中国文人画に興味を寄せる
知識人の中から日本の文人画家は誕生し
ました。田原町博物館は、ゆかりの渡辺
華山をはじめする関東文人画を中心とし
た常設展示を展開するほか、開館時に
「渡辺華山とその師友展」「椿椿山展」「谷
文晁展」「富岡鉄斎展」を開催してまいり
ました。

今回は、出光美術館が所蔵する文人画
コレクションの中から、日本の代表的な
文人画家、池大雅、与謝蕪村、田能村竹
田、浦上玉堂、青木木米、渡辺華山、椿
椿山、そして最後の文人画家ともいうべ

き富岡鉄斎等の名作の数々を展観します。
おもな出品作品

池大雅筆「十二月離合山水図屏風」
（重要文化財）

与謝蕪村筆「山水図屏風」(重要文化財)

田能村竹田筆「梅花書屋図」(重要文化

財)

浦上玉堂筆「籠煙惹滋図」・「雙峯挿

雲図」(重要文化財)

渡辺華山筆「鷓鴣捉魚図」

谷文晁筆「戸山山荘図稿・青山園荘図

稿」(重要文化財) など

期間中、一部展示替えを行います。



重要文化財 池大雅筆
十二月離合山水図屏風(部分) 江戸時代



重要文化財 田能村竹田筆
梅花書屋図 天保三年(一八三二)



富岡鉄斎筆 口出蓬萊図 明治二十六年(一八九三)

特別展記念講演会

「文人画の魅力 自娛の世界」

講師 黒田泰三氏

(出光美術館学芸課長)

五月十八日(日)午後一時三十分

会場 華山会館 入場無料

博物館特別講座 「文人画と篆刻」

講師 笠嶋忠幸氏

(出光美術館学芸員)

五月二十五日(日)午後一時三十分

定員 20人 四月二十五日から電話に

て先着順受付

特別展展示解説 田原町博物館

学芸員

四月二十七日(日)・六月一日(日)

午後一時三十分

展示解説に参加希望の方は観覧

料が必要になります。

今回の特別展の図録「出光美術館
所蔵 文人画名品展」(オールカラ
ー、無線綴じ) 価格税込一五〇〇円)
を販売します。出光美術館が所蔵す
る文人画コレクションの名品の図版
が数多く掲載されています。
他にも、出光美術館オリジナル絵
八ガキ(今回新発売のものもありま
す)、一筆箋、図録、研究紀要等を
特別展期間中に限り販売します。こ
の機会にぜひお買い求めください。

財団法人華山会から 田原町博物館 のご案内

特別展のご案内

四月二十五日～六月十五日

田原町博物館開館10周年記念特別展
「出光美術館所蔵 文人画名品展」

(特別展示室、企画展示室)
詳しくは15ページをご覧ください。

平常展のご案内

三月十一日～四月二十日

学者としての渡辺華山と師友(特別展示室)

山内一誠コレクション 渡辺華山資料を中心(企画展示室1)

田原の歴史 目で見る田原(企画展示室2)

六月十九日～八月三日

芝村義邦コレクション おでかけししょう(企画展示室1)

田原の歴史 向山古墳群の時代(企画展示室2)

八月六日～九月二十八日

田原藩の歴史 田原を治めた主君たち(企画展示室)

常設展示室では渡辺華山の生涯を紹介しています。

特別展示室では渡辺華山系画人の作品を中心に展示しています。

民俗資料館では田原の暮らしを中心に展示しています。

観覧料

特別展 四月二十五日～六月十五日

一般 五〇〇円(四〇〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

()内は千名以上の団体の料金

平常展

一般 二二〇円(一六〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

()内は千名以上の団体の料金

毎週月曜日は休館、月曜日が祝日の場合は翌日

催しものご案内

五月五日 午前九時三十分から

こどもの日企画「鎧を着てみよう」

親子・一般も可、定員54人

四月一日から電話にて先着順受付

五月十八日 午後一時三十分

特別展記念講演会

「文人画の魅力 自娛の世界」

講師 黒田泰三氏

(出光美術館学芸課長)

会場 華山会館 入場無料

五月二十五日 午後一時三十分

博物館講座「文人画と篆刻」

定員20人

四月二十五日から電話にて先着順受付

講師 笠嶋忠幸氏

(出光美術館学芸員)

四月二十七日・六月一日 午後一時三十分

特別展展示解説

田原町博物館学芸員

七月十九日～八月三十一日

夏休み博物館・図書館共同企画「自由研究相談室」

小・中学生 登録すれば、期間中の博物館入場無料

期間中の毎週土曜日 わくわく博物館探検ツアー

博物館・民俗資料館の見学

親子・一般も可、定員20人

七月一日から電話にて先着順受付

田原町博物館友の会会員募集中

入会申込書に十五年度分会費千円を添えてお申し込みください。

特典

展覧会・催し物のお知らせ

視察研修(年一回)に参加できます。

博物館だより(年三回)を郵送します。

財華山会からのご案内

華山・史学研究会会員募集中

申込場所 華山会館

毎月第四土曜日 研究会

視察研修に参加できます。

華山会報第十号

平成一五年四月一日発行

編集発行 財団法人華山会

理事長 白井孝市

事務局長 光浦貞佳

千四四一―二四二

愛知県渥美郡田原町田原巴江二の一

TEL 五三二・二二一・一七

FAX 五三二・二二一・一七一

編集・協力

田原町博物館

華山・史学研究会

会長 渡辺巨祥

林 和彦 尾川新一

山田哲夫 我部山正

林 哲志 小川金一

柴田雅芳 加藤克己

中神昌秀 仲井千恵

華山会報ご希望の方は華山会館・

田原町博物館にお申し出ください。

次回発行予定平成一五年一〇月一日